



熱い!!

全国で成果をあげる プロファイnderユーザーの声

「データをとることで収量だけではなく話せる仲間も増えた」 吉田 稔様(熊本県玉名市 トマト生産者)



地区	熊本県玉名市
作物	トマト(CF 千果、CF 小鈴)
台木	ブロック
作型	土耕
施設面積	70a
定植	8月17日~7月10日
定植本数	1.8本/m ² 、(12月から側枝を伸長して2.3本/m ²)
プロファイnder導入日	2012年12月

【導入したきっかけは？】

周囲の大玉トマト生産者との話がきっかけで、ハウス内の環境データを測定したいと思うようになったからです。以前は長年の勤と経験に頼った栽培でした。当時、玉名管内の大玉トマトではプロファイnderとCO2発生器の導入が少しずつ進んでいましたが、ミニトマトでは取り組む生産者はほとんどいませんでした。それ以前のCO2施用の方法は早朝にやると教えられていましたが、プロファイnderを導入している大玉トマトの方からは、昼間に施用するやり方に切り替わっていると聞きました。その方法を詳しく知りたいと思い誠和の勉強会に参加するため福岡県まで行き、話を聞いて納得しプロファイnderを導入しました。屋根型ハウスとドーム型ハウスでは環境も違うと考え、翌年には、2台目、3台目も追加購入しました。

【導入した感想は？】

導入当初は、データを見てもピンと来ませんでした。CO2発生器をすでに購入していたので、プロファイnderで24時間のデータを見ながら管理を変えて行きました。勉強会で聞いた方法で、CO2を昼間に施用すると樹勢が強くなるのを実感しました。その後も誠和の勉強会に何度も行き、温度、湿度、かん水などの管理を統合的に見直しました。以前の収量は地域平均（当時は約10t/10a）くらいを行ったり来たりでした。プロファイnder導入後、品種も変えたことも影響していると思いますが、色々と挑戦し、色々も失敗しましたが、取り組んだ成果が徐々に表れ、昨年度は（JAたまな管内約200戸の中CF小鈴部門で）表彰を受けることができました。最近になってから環境制御に取り組む若手は、恵まれていると思います。勉強会に何度も行きながら試行錯誤してきた人の話を聞けたり、プロファイnderクラウドのサービスを利用して、知り合いとのデータを比べながら話をしたりすればスムーズに入り込むことができると思います。誠和の勉強会の内容も、数年前のプロファイnder導入当初から、さらに充実してきているので今でも参加するようにしています。常に勉強です。最近では、プロファイnderの測定データを使って話す相手が周囲が増えてきたので、プロファイnderを導入している友達が増えることの利点も感じています。

【今後の抱負は？】

今まで、まわりの人よりも高い秀品率にこだわって栽培してきました。古いハウスも新しいハウスもありますが、現状のハウスで、今の品質を維持しつつ、将来的には、まだまだ収量を増やしていきたいと思います。

【誠和担当者からの一言】

久留米営業所の上山です。今回のインタビューを受けていただき、ありがとうございました。吉田さんは兄貴肌なところがあり、当時、環境制御に取り組んでいない仲間を熊本県から栃木県のトマトパークまで連れてきていただきました。それがきっかけで、プロファイnderを導入していただいたり、吉田さんが新設ハウスを建てる際には、一緒にハウスを建てる方に声かけして勉強会にきていただいたり、私が大変お世話になった方です。その時のハウスにLSスクリーンを導入し、満足していただいた時は私も嬉しかったです。周りにプロファイnderユーザーが増えてからの吉田さんの方が、なんとなく楽しそうにトマトの話をしている気がします。これからも、さらに収益向上につながるような情報発信をしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。